

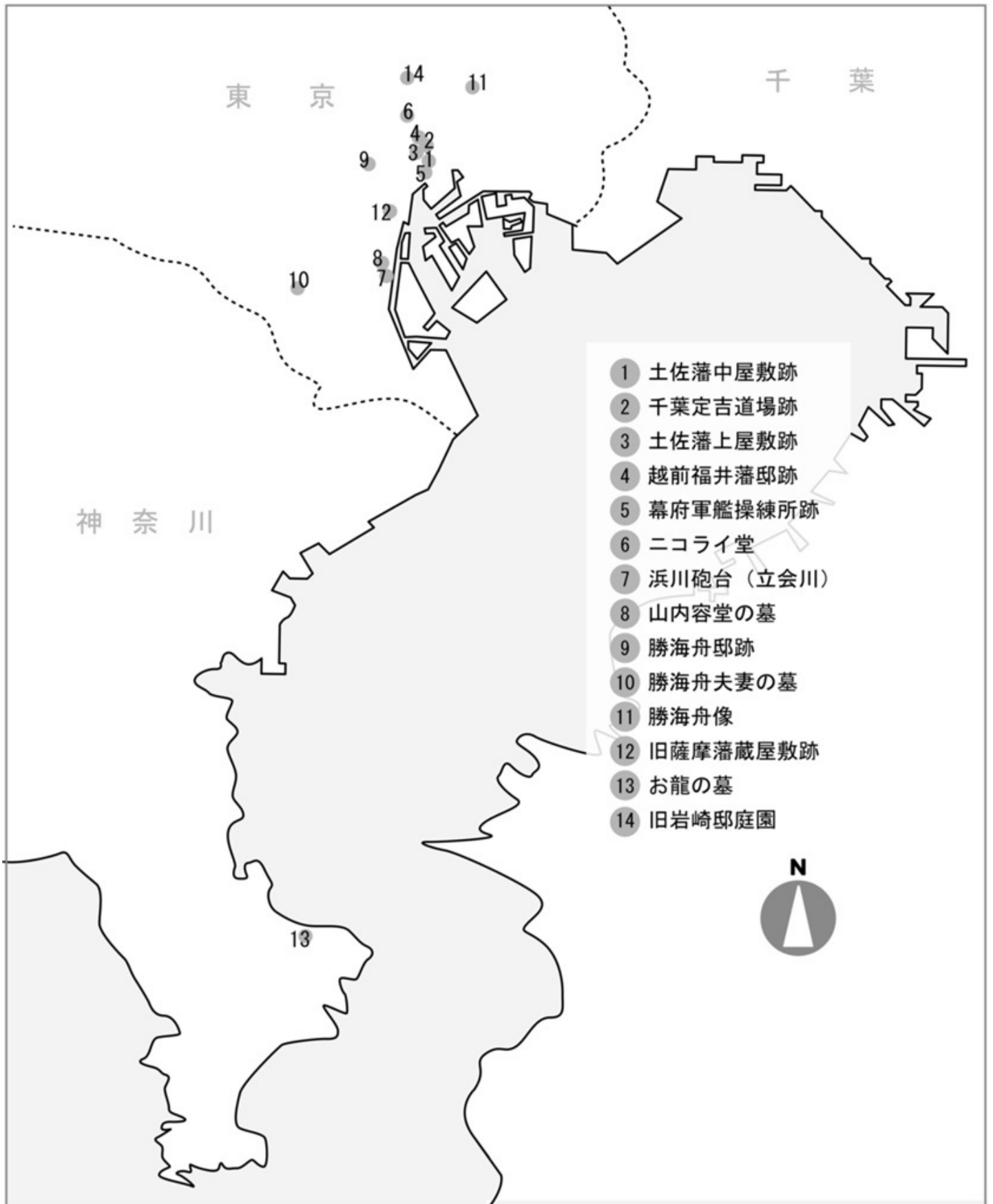


あつきーと行く

坂本龍馬

～ゆかりの地からのメッセージ～





「しまった・・・。」

その日、わたしは土佐藩中屋敷跡を訪ねていました。

現在の中央区役所の辺りです（画：1）。

ところが、うっかり土曜日に出かけてしまい、当然ながら区役所の入り口は閉まっていた

。

「うわっ！ せっかく来たのに～。」

わたしは中へ入ることを断念し、仕方なく建物の周辺でチャネリング・メッセージを受け取ることにしました。

テクテク歩いていると、ふと区役所の裏口が開いていることに気づきました。

区役所の地下1～2階には中央区立京橋図書館があり、土曜日も開館していたのです。

「ラッキー！」

初夏の日差しが強い午後だったので助かりました。

さっそく図書館の地下1階にある閲覧室へ。

比較的混んでいるように見えました。

わたしは一番奥の空いてる席に座りました。

周りを見渡してみると、皆さんが思い思いに利用しています。

「これなら大丈夫そう。」

わたしはノートとペンを用意し、どなたが登場されるのかワクワクしながら待ちました。

しばらくして現れたのは、なんと坂本龍馬さんでした♪
初対面ではなかったものの、この日はたった一人で登場です。
しかも、なにやらいつもと様子が違います。

わたしの目の前に現れた龍馬さんは、重そうな刀を外し、傍らに置くと、いきなりドカッと床にあぐらをかきました。

そのままズズーっとわたしの方へにじり寄り、ズンっと前のめりの姿勢に。

「ち、近いっ！」

わたしはやや押されぎみです（笑）

まるで龍馬さんから『今日は話すぞ〜！！』と気合が伝わってくるかのようです。

「本を書くんだって？」

そう言って、龍馬さんはニッコリと笑いました。

そういえば最初に龍馬さんに会ったときは、まだ本を書くなんて思ってもいませんでした。

「けっこう勇気がいっただろう？」

この日は龍馬さんから何度も「勇気」という言葉が送られてきました。

「灰色の霧の向こうに、巨大な黒船が現れた。」

初めて黒船に遭遇したとき、龍馬さんの目にはこのように映っていました。

そして、意外にも興奮して走り回るのではなく、ただ呆然とその場に立ち尽くすだけだったそうです。

わたしが「それはどうして？」と尋ねると、

そのときの自分の感情に当てはまる言葉が見つからないと説明してくれました。

それからしばらくは、あの黒船のイメージが頭から離れない日々が続きました。

落ち着かないし、気になるけれど、もうどうしてよいかかわからない。

そんな感じだったそうです。

その後、ええい～！ 理由なんてどうでもいい。

とにかく、こんなに気になるのだから黒船について知ろう、と龍馬さんは行動を起こします。

「気のせいだろうと自分をごまかさなくてよかった。」

その当時のことを、龍馬さんはこう言いました。

そして、「初めてマウントシャスタ（画：2）を訪ねたときのことを思い出すといい。」とわたしに語り掛けました。

そもそもマウントシャスタは、わたしの友人が憧れている場所でした。

いつかはそこを訪ねたいと言っていて、わたしはその名前を何度も聞いているのに、なかなか覚えられずにいました。

「えっと、あそこ。どこだっけ？」なんて調子で（笑）。

ある日、いい加減名前くらい覚えなさいと、友人からインターネットで画像を見せられました。

その瞬間です！

わたしの頭の中に、マウントシャスタのイメージがバーンと広がったのです。

それは不思議な感覚でした。

それからの1週間は、気づけばインターネットでその画像を何度もクリックしていました。

そして、なんとなくツアーがないかと検索してみました。

すると数ヵ月後にツアーが企画されていて、まだ募集期間であることを知りました。

調べているのに、その頃のわたしは矛盾していました。

「どうせ仕事が休めないから、行けないに決まってる。」

「きっと飛行機だって、もう空席はないと思う。」

ところがどれもクリアーにされ、行けない理由が見つからなくなってしまいました。

2006年の夏、こうしてわたしは一人でマウントシャスタ行きのツアーに参加したのです。

今のようにチャネリング・メッセージを受け取るようになったのも、マウントシャスタを訪ねたことがきっかけでした。

わたしは土佐藩中屋敷跡で、坂本龍馬さんからチャネリング・メッセージを受け取りました。

ふとしたことがきっかけで、自分が本当にやりたいこと、生きたい人生へとたどり着くことがある。

それは幾度となく姿を現しているのに、「気のせいだ」「思い過ごしだ」と決め付けて、ただ目の前を通過しているだけかもしれない。

そうやって自分をごまかしてはいないだろうか？

行動を起こさずして人生を諦め、失望している若者たちを多く見かける。

今、立っているその場所から、さらに前へと踏み込むには、行動を起こすための勇気を持つことが大切だ。

「そんなもんじゃない！」とわたしは強く投げ掛けたい。

もっと勇気を持って、自分の人生を切り開いて欲しい。

そして、新しく広がる世界を、自分の目で確かめて欲しい。

龍馬さんは、この本を読んだ方々が、勇気を持って、これからの人生を切り開いていこうと思ってくれるような、そんな本にしたいと考えているそうです。

えっ？

それって、もしかしてわたしにかかっています？

が、が、がんばります・・・。

☆坂本龍馬さんの印象

やや押しが強い（笑）。

だけどフレンドリーで、緊張させない人。

そして、笑顔がとっても素敵。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



【土佐藩中屋敷跡】（画：1）

2度目の剣術修行時に武市半平太と共に滞在したのが現在の中央区役所の辺りです。

ちなみに看板や碑などは設置されていません。





【マウントシャスタ】（画：2） 2010年8月撮影

アメリカ、北カリフォルニアにある標高14,179フィートの火山。
古くからネイティブアメリカンの聖なる山、神聖な場所として有名なパワースポット。
富士山とエネルギーがつながっているとも言われている。
マウントシャスタにはさまざまなスピリチュアル伝説が今なお存在している。

※参考文献

著 高原 操 「パワースポット シャスタ山の歩き方」 ヴォイス社 2004年



わたしが坂本龍馬ゆかりの地めぐりをはじめた、記念すべき最初の目的地が千葉定吉道場跡でした。

この頃は、「歴史上の人物と話ができたらラッキー！」ぐらいの軽いノリで、文章化して人に紹介しようなどとはまったく考えてもいませんでした。

ですから、今思えば申し訳ないぐらいの、ゆる～いテンションだったのですが、その反面、「本当に会えるかな？」「相手にしてもらえるかな？」なんて、若干ビビっていたのも事実です（笑）。

やや緊張しながら、目的地である中央区八重洲口の鍛冶屋橋交差点へ向かいました。千葉定吉道場跡には2説あるそうです。わたしがピンときたのは、こちら鍛冶屋橋交差点付近でした。

交差点の角に立ち、

「誰かいるのかなあ～？」

と見渡すと、交差点の向こう側から、一人の侍らしき方がこちらに向かって横断歩道を歩いてきます。

目の前に立っているそのお侍さん、わたしはどなたかわからなかったので、お名前を尋ねました。

千葉定吉道場で龍馬さんに稽古をつけた千葉重太郎さんでした。

実はこのとき、わたしは本当に失礼なことをしてしまいました。

唐突に、坂本龍馬さんに会いたいと、重太郎さんに相談しちゃったのです。

せっかく重太郎さんが来てくださったというのに、あっきのバカたれ！すると、重太郎さんは快く、龍馬さんを連れて来てくれました。

今度は交差点の向こう側に侍が二人立っています。

・・・もうおわかりですよ？

重太郎さんと龍馬さんです。

でも、二人で横断歩道を渡っているその光景がどうにも面白くて・・・
わたしは笑うのを必死で堪えていました。

わたしが初めて龍馬さんに会ったのはこのときです。

龍馬さんは日焼けしていて、髪を後ろでひとつに縛っていました。
緊張しているわたしを前に、目を細くして、歯を見せて笑ってくれました。

「なんかホッとする～。」

龍馬さんのこの笑顔がわたしをすぐにリラックスさせてくれました。

千葉定吉道場跡では、千葉重太郎さんからチャネリング・メッセージを受け取りました。

リーダーになるべくしてなる人がいます。

そういう人は、一人一人の才能や長所が何かを見極め、
時に厳しく、時に励ましながら、自信を持たせていきます。

リーダーは個人を生かすことができる人です。
そして、さらにふさわしい場所へと送り出すことができる人です。

あなたの周りの人々にとって、どうか良きリーダーとなってください。

千葉定吉道場跡は、重太郎さんの妹、千葉佐那さんに会った後で再び訪ねました。
その時も、重太郎さんと龍馬さんが並んで登場されました（笑）。
佐那さんについては後ほどご紹介します。

☆千葉重太郎さんの印象

きちっと袴を着こなし、歩くときの背筋はピシッと伸びて、いかにも剣士！
しかし物腰は柔らかく、こちらを見るときに瞳がとても穏やかで、やさしい。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



【千葉定吉道場跡】

千葉定吉は、北辰一刀（ほくしんいっとう）流剣術の創始者千葉周作の弟であり、自身も北辰一刀流の使い手として知られています。

剣術修行のために江戸へ出てきた坂本龍馬は、定吉の門に入ったとされています。

この時定吉は、鳥取藩池田家の江戸屋敷に仕官していたため、龍馬は定吉の息子千葉重太郎のもとで修行に励んだとも考えられています。

こちら看板や碑などは設置されていません。



「まるで女神のよう・・・」

そう、自然と言葉が出ていました。

目の前の佐那（佐那）さんは、美しいライトブルーの光で全身が輝いていました。
わたしが千葉佐那さんからチャネリング・メッセージを受け取ったときのことです。

佐那さんにお会いしたのは、意外にも土佐藩上屋敷跡でした。

今の東京国際フォーラム（画：1）の辺りです。

展示会やコンサートでよく出かけていましたが、まさか龍馬さんにゆかりがある場所だったとは！

土佐藩上屋敷跡と、前述した千葉定吉道場跡は歩いてすぐという近さです。

わたしがチャネリング・メッセージを受け取ったのは、オープンスペースのイベント広場（画：2）です。

木漏れ日が降り注ぐ、イベント広場のベンチに腰掛けていると、しばらくして、前方にぼんやりと人の群れが現れました。

徐々にシルエットがはっきりしてきて、それらは大勢の武士だと気づきました。

どうやら土佐藩士のようなのですが、一人一人の顔までは確認できません。

薄ぼんやりとしたその光景に、わたしは「なんだか不思議ねえ～」と眺めていました。

すると、その集団の後ろから一人の女性がススーっと前に出てきました。

こちらは薄ぼんやりどころが、くっきりとリアルです（笑）

ジャーン、千葉佐那さんの登場です！

わたしは土佐藩上屋敷跡を2度訪ねています。

いずれも千葉佐那さんに会いました。

初めて会ったときの佐那さんは、着物姿で、きれいに髪を結っていました。

そして、わたしに近づいてくると、そっと小さな櫛を取り出し、わたしの髪に挿してくれました。

それは半月型のつけ櫛で、装飾がないとてもシンプルなものでした。

日々、厳しい剣術修行をしていた佐那さんですが、

一人、部屋で髪の手入れをするときは、ひそやかに龍馬さんのことを慕い、胸をときめかせている様子が伝わってきました。

わたしはその光景を見て、胸がキュ〜ンとなりました。

これには後日談があります。

それからしばらくして、たまたま浅草に出かけた時のことです。

ある店先のガラスケースの中に、佐那さんのつけ櫛にそっくりな形のものを見つけました。
嬉しかったですね〜。

もちろん迷わず買って帰りました。

つけ櫛は刃が繊細だと伺ったので、透明のケースに入れて持ち歩いています。

佐那さんパワー注入の、縁結びの手作りお守りです（笑）。



2度目にお会いしたときの佐那さんは道着を着ていました。
髪は後ろでひとつにきちんととまとめています。

このときに千葉佐那さんから受け取ったチャネリング・メッセージをご紹介します。
これは女性に向けてのメッセージです。

思い出してください。

日本女性は内側に芯の強さと奥ゆかしさを備えています。

日本女性として、美しく生きること、
それには内面における剛と柔のバランスが大切です。

美しさはあなたの内側から輝きとなってあふれてきます。

☆千葉佐那さんの印象

凜とした雰囲気漂わせた、美しい顔立ちの女性。
過去には一切迷いがない、悔いがない、潔い方。
女性を導き、サポートしてくれる女神的存在。



【土佐藩上屋敷跡】 (画：2)
オープンスペースのイベント広場



【土佐藩上屋敷跡】（画：1）

龍馬が最初の剣術修行で江戸に出てきたときに滞在したのが現在の東京国際フォーラムの辺りです。

かつては碑がありました但现在はありません。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



この本は、この方と出会っていなければ誕生しませんでした。
それくらいキーマンなんです（笑）、春嶽（しゅんがく）さんは。

わたしが松平春嶽さんに会ったのは、越前福井藩邸跡。
現在の大手町にあります、逓信総合博物館ていば一くあたりです。
わたしは建物の中には入らず、屋外でメッセージを受け取りました。

はじめにわたしの前に現れたのは、一人の門番でした。
用件を尋ねられたので、坂本龍馬にゆかりがある方を探していると伝えました。
すると門を開けて、わたしを中に通してくれました。
さすがお殿様です！ ガードが堅いですね（笑）

お屋敷の中へ入ると、奥の部屋へと案内されました。
なぜかとても印象に残っているのが、部屋の奥にあったお茶の道具です。
わたしは一瞬、お茶の香りを嗅いだ気がしました。

そして部屋の中には松平春嶽さんが座っていました。
春嶽さんはあまりおしゃべりではありません。
会話がないから困るといった空気でもないのですが。
それではと、わたしから自己紹介をさせていただきました。

わたしが挨拶をすませると、春嶽さんから万年筆をいただきました。
そのペンでチャネリング・メッセージを書きとめるのだと思い、その日はお礼を告げて、帰りました。

しばらくしてから、ふと、『万年筆の意味が違うのでは?』と気づきました。
尋ねてみると、わたしに伝えられたメッセージは「本を書く」でした。
絶句です・・・気づいてしまったことをわたしはかなり後悔しました（笑）。

実は、数年前にも「本を書く」というメッセージを受け取っていたのに、
「いやいや、それはないから・・・」
と逃げた経験がはっきりあるのです。

わたしにとって「書くこと」は決して得意ではありません。
もちろん、これまで作家になりたいとか一度も思ったことはありません。
ただ、わたしが受け取ったチャネリング・メッセージや、それにまつわるエピソードを家族や
友達に話すことは好きでした。
みんなわたしの話を目をキラキラさせて聞いてくれたり、時にはお腹を抱えて笑ってくれるか
らです。

そのときの明るく楽しい雰囲気がとても好きです。

わたしはもう一度、松平春嶽さんに会って確かめようと思いました。
往生際が悪いのです（笑）。

二度目に会ったときです。
わたしの質問に対して、なんと春嶽さんはあっさりと認めました。
そして、こう言われました。

わたしが松平春嶽さんから受け取ったチャネリング・メッセージです。

疑うな。

そして、迷うな。

受け取ったメッセージも、
これから進もうとする道についても。

わたしは才を認めたものにはあらゆる側面で味方になる。
だから、素直に受け取り、喜んで皆に伝えなさい。

その日から、わたしは伝えることを意図して、龍馬さんや龍馬さんにゆかりがあるかたを訪ねることになりました。

☆松平春嶽さんの印象

上品で、いかにも位が高い人だと感じるが、決してこちらを見下したりはしない。
あまり多弁ではないが、ゆっくりと話をする方。
そして、よく観察されながら、こちら話を聞いている。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



【越前福井藩邸跡】

龍馬はここで幕府の政治総裁職だった松平春嶽と面会しました。
皇居の程近くで千葉定吉の道場からは徒歩10分ほど。

今は通信総合博物館ていぱーく辺りです。

この時に横井小楠、勝海舟への面会状を入手したとされています。



この日の史跡めぐりは、出かける前から心ウキウキでした♪
なぜなら場所が、江戸の台所である築地市場だったからです。

「メッセージを受け取ったら、ランチしよう！ 何食べよ〜。」
すっかり目的が逆転している？ 食いしん坊なあっきーでした。

幕府軍艦操練所跡は土佐藩中屋敷跡から歩いて10分ほどです。
ちょうど築地市場の辺りで、こちらは歩道に看板（画：1）があります。

この付近は人通りが多く、歩道にも十分なスペースがありません。
しかも、ランチの時間までそれほど余裕もありません（笑）
わたしはメッセージを受け取る場所を探すのに少し困りました。
結局、建物の壁面に立ち、歩道を通る人々の邪魔にならないように、そっと短時間でおこないました。

たくさんの武士たちがわたしの目の前に集まってきました。
あっ！一番後ろには龍馬さんがいます。
笑顔でこちらを見えています。
嬉しいな〜♪

すると、メンバーに押し出されるようにして、一人の武士がわたしの目の前に飛び出して来ました。
見るからに若いお侍さんです。
しかし、この方が誰なのか、わたしにはさっぱり見当がつきません。
失礼ながらお名前を尋ねると、千屋寅之助（ちやとらのすけ）さんだと名乗ってくれました。

幕府軍艦操練所跡では、わたしは千屋寅之助さんからのチャネリング・メッセージを受け取りました。

ここでみんなと訓練することや、勉強することはとても楽しい。
そして、いろんな仲間と知り合えたことはとても嬉しい。

みんなが集まると、いつもこれから先のことを考え、語り合って、胸が躍るんだ。

もちろん一人で考え込むと、緊張してきて、少し不安になることだってあるよ。
きっと新しいことを始める前は誰だってそうだろう？

でも、重荷に感じないように心がけているんだ。
仲間が応援してくれるから、結局はいつも笑ってばかりだけど。

それから、読者に向けてのメッセージが追加されました。

あなたといつも一緒にいる人たちのことを考えてみて。
そう、あなたが仲間だと言っている人たちのことだよ。

その輪の中にいるあなたは、いつもどんな気分にいる？
一緒にいると楽しい？
一人になったとき、やる気は出てくる？

たった一人で、自分を疑うことなく、黙々と目標に向かって突き進むことができる人は少ないと思う。

互いに切磋琢磨して、共に成長できる人たちがいたとしたら、それは仲間だよね。

「このままでいいんだ。」

「ずっとここにしよう。」

もしも、そんな思いでいつも一緒にいるとしたら、それは仲間ではなく、お互いに引き留めているだけではないだろうか？

あなたも、あなたのそばにいる人たちも、お互いを影響しあっているんだよ。

☆千屋寅之助さんの印象

若いからなのか、いつも仲間からはかわいがられつつ、いじられつつ（笑）

本人はとてもシャイだが、伝えたいことはわかりやすく、ストレートに語ってくれる純粋な青年。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



【幕府軍艦操練所跡】（画：1）

【幕府軍艦操練所跡】

ペリーによる黒船艦隊の来航後、西洋式海軍の必要性に迫られた江戸幕府が、旗本や御家人、諸藩の藩士などから希望者を集めて、航海術・海上砲術の講習や、オランダから輸入した軍艦の運転を練習させる目的で軍艦教授所（後の軍艦操練所）を築地講武所内に創設しました。

その後、勝海舟らが頭取をつとめました。

☆ランチスナップ☆



幕府軍艦操練所跡からすぐにある場外のお鮓屋さんです。

ランチ、おいしくいただきました。

今度は築地市場に出向いて、朝からお鮓屋さんを食べ歩きしたいなあ〜。うしし



ニコライ堂（画：1）には不思議なご縁を感じました。
それは坂本龍馬さんゆかりの地を訪ね歩く、少し前の出来事です。

わたしは仕事関係の展示会に出席するため、大手町に向かいました。
往きは遅刻をしないよう、会場そばの大手町駅で下車しました。
帰りは時間に余裕があったので、少し歩いて最寄のJR駅から帰宅することにしました。
ところが、行けども行けども、すぐに現れるはずの駅が見当たりません。

「あれ？おかしいな～、もう少し先かな～？」
どンドン、どンドン歩き、ふと目の前に現れたのがニコライ堂でした。
その建物の美しさに、わたしはしばらくポカーンと見つめていました。

そう、どうやら道に迷ってしまったようです。
気づくのが遅いです。
遅すぎます！

あっ！ニコライ堂のすぐ先には、御茶ノ水駅が見えます。
最寄のJR駅？ いやいや。
なんと大手町駅から御茶ノ水駅まで歩いていたのですね・・・。

しかも自宅とはまったくの逆方向ですね・・・はい。

後で気づきましたが、大手町の展示会場のすぐ近くに越前福井藩邸跡がありました。

そして、偶然向かった先がニコライ堂です。

こちらは龍馬さんにゆかりがある山本琢磨（やまもとたくま）さんがかかわっていました。

どちらも龍馬さんつながりだったわけです。

越前福井藩邸跡で出会った松平春嶽さんに、本を書くように薦められたあとで、わたしは再びニコライ堂（東京復活大聖堂教会）を訪ねました。

まずは拝観献金を支払い、聖堂内を見学しました。

ちょうど信徒さんが数名の見学者に説明をしている最中でした。

わたしはしばらく見学した後、そっと聖堂を出て、敷地内にある入り口付近のベンチに座りました。

しばらくして、聖堂から一人の男性が出てきました。

年齢は40～50代かと思われます。

黒っぽい長い衣服を着て、右手には十字架を持っています。

こちらを見て穏やかに微笑むと、ゆっくりとわたしの隣に腰を下ろしました。

山本琢磨さんです。

ニコライ堂では山本琢磨さんからチャネリング・メッセージを受け取りました。

必ず方法は見つかります。

追いつめられた。

もう終わりだ。

たとえそう思ったとしてもです。

肩の力を抜きなさい。

落ち着いて周囲を見渡しなさい。

冷静になるのです。

一筋の光りが射しているでしょう？

そこから抜け出せます。

あきらめないこと。

それが救いの手です。

☆山本琢磨さんの印象

わたしがニコライ堂を後にするときにかけてくれたメッセージがとても心に残っています。

「生きたいように生きなさい。」

個人的なメッセージでしたが、ぜひ紹介したいと思い、ここに載せました。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



【ニコライ堂（東京復活大聖堂教会）】 （画：1）

龍馬の従兄弟である山本（後に沢辺）琢磨ゆかりの教会である。

江戸で剣術修業をしていた琢磨は、『時計事件』に巻き込まれて窮地に陥ったところを龍馬に助けられて江戸を出奔した。

箱館にたどりついた琢磨はロシア正教会のニコライ神父と出会って洗礼を受け、後に司祭となって、ニコライ堂の建設にも関わった。

ニコライ堂の正式名称は、「東京復活大聖堂」。



これまでご紹介してきた坂本龍馬さんゆかりの地めぐり、いかがでしたか？

実際に訪ねてみると、看板や碑がないところがけっこう多かったです。

「えっ？ここが？」なんて思われるかもしれませんね。

う～む。

江戸でも気軽に龍馬さんを実感できるスポットをご紹介したい！

ということで、あっきーオススメの「ひと休みスポット」をプチ写真集で楽しんでいただきましょう。

京急線「立会川駅」（たちあいがわ）周辺を龍馬さんと一緒にお散歩してみてください。

あっきーがご案内いたします。

いざ、出発～♪



駅のホームにズバーンっと、もう気分は盛り上がってきますね（笑）



坂本龍馬像です！

実はここで、TBSテレビ「王様のブランチ」のロケにばったり遭遇しちゃいました。

このあと、行くところ行くところブランチの皆さんととかぶってしまい、

デジカメ持っていたので、おっかけと間違われていないかと冷や冷やでした。

実際にお会いした、お姫様ファッションのはしのえみさんはとってもかわいかったですよ～♪



坂本龍馬像のすぐ奥に、仲町稲荷神社（なかちょういなりじんじゃ）があります。
ここで参拝してから、わたしは龍馬像の写真を撮影に行き、はしのえみちゃんにバツタリ♪
お稲荷さんのサプライズかしら～？



立会川駅から旧東海道方面へ向かうと、浜川砲台跡があります。
黒船来航に備えて、龍馬さんもここで警備陣に加わっていたそうです。



イラストの黒船と龍馬さんがおちゃめですね♪

立会川駅から、浜川砲台跡へ向かう商店街の途中で、ランチなどいかがでしょうか？



こちら鳳明軒（ほうめいけん）さんの龍馬ラーメンがオススメです。



龍馬さんの好物である軍鶏（しゃも）肉を使った、あっさりとしたおいしいスープです。

一方、立会川駅から第一京浜方面へ歩くと、こんな横断幕がありました。



旧・土佐高知藩山内家下屋敷跡（きゅう・とさこうちはんやまうちけしもやしきあと）へ通じます。



区立浜川中学校の国道沿いに看板が設置されています。
かなり広大な敷地だったそうです。



お土産にカフェ・ロティさんのパン「龍馬の足跡」はいかがでしょう？



お店の方が運んできたばかりの、焼きたてをパチリ☆
ちなみに右足がクリームパンで、左足がこしあんとなっております。
あっきーはもちろん両足ゲットです♪





わたしの自宅から最も近い龍馬さんゆかりの地は、山内容堂（豊信）（やまうちようどう・とよしげ）さんのお墓です。

しかし、ここを訪ねるのには少し勇気がいるかもしれません。

容堂さんのお墓は、鮫洲駅から歩いて5分のところにある大井公園（画：1）に隣接しています。

大井公園の入り口手前にある小道に入り、突き当たりの門を抜けると、階段の先に独立した墓地があります。

古い急な階段と（画：2）、うっそうと茂った木々、昼間でもいい感じで暗いです（笑）午後5時には門が閉まるためお参りできませんが、それも納得できる雰囲気でした。いつもはゆる～いテンションのあっきーも、ここではちょっと気を引き締めて中へ。

まるで警戒するように蜂がブーンブーン集まってきます。

「ふえ～ん。容堂公にお話を聞きに来ただけです。刺さないで！」とお願いしました。

すると蜂はすぐに向こうへ行ってくれました。ほっ

気を取り直して、山内容堂さんの墓前にお参りをしました（画：3）。

わたしの前に現れた容堂さんはなんだかご機嫌でした。

お酒が入っているのかな？（笑）

わたしは山内容堂さんの墓前で、チャネリング・メッセージを受け取りました。

大勢の民を守らなくてはならない立場だと意識して、わたしは藩主となった。

守るべきものが多ければ多いほど、失敗は許されない。
だからと言って、主たるもの挑戦を恐れてはいけない。

しかし、わたしは簡単に歩ける身分ではない。
世の中の流れを冷静に見極め、状況を判断することに注意を払った。

人は酒の席では油断するだろう？
いつも酒に酔っているわたしの前では、皆、少し気が緩み多弁になる。
わたしはそうやって相手をじっくり観察して、その先を見極めた。

お前はどこへでも行きたい所に行けるだろう？
欲しいものはないのか？
(右手を握り、こぶしを作ると)
だったらその手でしっかりとつかめ！

だが、焦って失敗するなよ。
確実に歩み寄り、機が熟すのを待て。
つかみ取るのはそれからだ。

時には危うい立場に陥ることだってあるかもしれない。
そのときは大逆転のチャンスを狙うまでだ。

チャンスはそう何度も訪れるものではないぞ。
しかし、あきれめたらそこで終わりだ。

人生をあきらめないものには、必ず再生の道が見えてくる。

容堂さんからのメッセージは予想以上に多く、わたしは小さなメモ帳にせっせと書き取りました。

すると帰り際に、容堂さんから一冊のノートを渡されました。
本原稿はこれに書きなさい、ニヤッと微笑みながら（笑）

とうとう松平春嶽さんの万年筆と、山内容堂さんからのノートがそろいました。
いよいよ書かないといけないなあ〜と、若干プレッシャーを感じつつ（笑）、わたしは帰宅しました。

☆山内容堂さんの印象

お酒に酔っているようでいて、実はその目はとても鋭い。
はっきりとものを言う方で、とても肝が据わっている。
野心を持ち、積極的に行動を起こしたい人には、成功のための知恵を授けてくれるそう。
お心当たりがある方は、訪ねてみるとよいかもしれません。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



(画：1)



(画：2)



(画：3)





以前、失礼ながら坂本龍馬さんの印象を「やや押しが強い（笑）」と書きました。（P8参照）
もしかすると、それは師匠譲りなのかもしれません。

勝海舟さんとは、わたしが龍馬さんゆかりの地めぐりを始めてから、何度もお会いしています。
そして、その度に、わたしに強烈な印象を与えてくれます。

途中、この本の主役が龍馬さんから勝さんに持っていかれるのでは？と思われるほどです（笑）

そういう訳で、勝海舟さんとの出会いはいくつかの章にわけてご紹介させていただきます。

わたしは赤坂にある勝海舟邸跡（画：1）を2度訪ねました。

1度目は、気軽にぶらりと散策に。

その時に案内をしてくれたのは龍馬さんでした。

現在、勝海舟邸跡にはG A B Yというアイリッシュバーが建っています。

お店の植え込みには碑と案内板（画：2）があります。

わたしはお店が営業する前の昼間に、道沿いでチャネリング・メッセージを受け取りました。

勝海舟さんが現れると、龍馬さんは勝さんのやや後ろへ下がり、腰を低くしました。

師匠と弟子、まさにそういう雰囲気です。

龍馬さんは何やら少し困った顔をして、勝さんとわたしをうかがっています。

その心配顔の理由はそれからすぐにわかりました。

勝海舟さんは軍服姿で、腰には刀のような剣を挿していました。

服装がバッチリきまっています！

そして、わたしの方へさっそうと歩いてきました。

初対面で会っていきなり、わたしはなぜか勝さんからお説教をされました。

「己の人生に負けるな！」

「目的を持って生きろ、流されるな！」

わたしは「はぁ・・・。」とあっけにとられて返事をしました。

その当時は負けてる気も、流されてる気もなかったもので（笑）

勝さんはお弟子さんである龍馬さんについて、行動力があるところがとても気に入っていると話してくれました。

それから、おもむろに腰に挿している剣を抜きました。

その剣をわたしに持つようにと言い、その意味について話してくれました。

これは人を刺すためのものではない。

行く手を遮るものを振り払うためのものである。

そうすれば、目指す場所まで、もっと速いスピードで進むことができるだろう。

それから、白く輝いた1本の道を見せてくれました。

ものすごいスピードなのでしょう。

その道に立つと、両脇の景色は流れるようにまったく見えません。

このスピードで、自らが流されず、目標を見失わずに、全力で走り続けることは容易ではないなあ～とわたしは感じました。

なんだか勝コーチから

「あっきー、遅い！」「もっと速く走らんか！！」
と、トレーニングを受けたような気分でした。

しょぼん。

2度目の訪問では、わたしが皆さんから受け取ったメッセージを本に書くことを報告しました。

すると、勝海舟さんはとたんにニッコリ笑顔となり、初回とは明らかにわたしへの接し方が変わりました（笑）

そして、わたしは勝海舟邸跡で、読者へ向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

新たな可能性にかけること。
自分の人生を試すこと。

それが冒険だ。

目指すものがあるとき、人は決してぶれない。
ただひたすらに前を見て、わき目も触れずに突き進む。

途中、悩んだり苦しんだりすることは、人生の中での味付けにすぎない。
後から笑い話に変えてしまえば、それでいい。

冒険をきなさい、もっと、もっと。
挑戦が人生を鮮やかに色づけしてくれる。

☆勝海舟さんの印象

最初はその強烈な話し方に面食らいました。

会うなりお説教をされて「うるさいなあ〜」と思ったことも（すみません）

勝さんは一言で言うと、厳しい方だと印象を受けます。

それは自分自身に対しても厳しかったからなのでしょう。

気に入ればどんどんアドバイスを下さり、親身になってくれる、頼りになる師匠です。

しかし、やる気がないと判断されたら、付いて来なくていいとスパッと切り離します。

ですから、会うときはちょっと緊張するんですよ〜。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。

☆おすすめスポット☆

勝海舟邸跡の前にある坂を少し上ると、赤坂氷川神社（画：3）があります。

わたしはこちらで、奇稲田姫命（くしいなだひめのみこと）にお会いしました。

華やかな、とても美しい女神でした。

縁結びのご利益が欲しいかたは、こちらも立ち寄ってみてはいかがでしょうか？

わたしが訪ねたときは、神前結婚式を終えたばかりの新郎と新婦が記念写真を撮っていました

。



(画：1)



(画：2)



(画：3)



勝海舟邸跡を訪ねてから、わたしは勝さんからもっとメッセージを受け取りたいと思うようになりました。

最初はお説教をされて面倒に感じていたのに、あら不思議（笑）

今度は洗足池公園（せんぞくいけ）にある勝海舟夫妻の墓（画：1）を訪ねてみました。

墓地がある洗足池公園はわたしの自宅からは少し離れています。

その日は晴天の休日だったので、わたしは東急池上線に乗り、遠足気分で出かけました。

洗足池駅を降りて、洗足池公園に向かう道中には、勝海舟別邸跡（洗足軒）があります（画：2）

駅から徒歩で5分ほどの、ちょうど区立洗足池図書館の向かいです。

こちらには案内板がたっています。

勝海舟別邸跡から、さらに5分ほど歩くと洗足池公園（画：3）があります。

この日は家族連れでとても賑わっていました。

そして、公園東側には、きれいに整備された勝海舟夫妻の墓があります。

墓前にお参りをすると、軍服姿の勝海舟さんが堂々と立っていました。

わたしの目を見てニニカッと笑うと、またも唐突に、

「いじいじしてるなあ〜」

と言われました。

ど真ん中にグサツとききました。

実はこの頃、わたしは受け取ったチャネリング・メッセージを原稿に書き始めたばかりでした

。

ところが、なかなか思うように作業が進まず、やや凹んでいたのです。

それから、続けて、

「わしは後悔はしておらんぞ。」

「精一杯、生きたからな。」

目の前の勝さんはスッキリとした明るい笑顔で、わたしを見つめて言いました。

「まだ自分を抑えているよな？」

「だからいじいじして見えるんだ。」

「本来の君はもっと勢いがあるだろう？」

「自信を持っていけ！」

厳しい言い回しのようにも聞こえて、実際は泣きたくなるほど嬉しかったです。

叱咤激励とはこのことですね。

それから、勝海舟夫妻の墓前で、わたしは勝海舟さんから、読者へ向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

人生、最後に後悔はして欲しくない。

皆、底知れない能力と、強さを持っている。

その2～3割しか発揮できていないのではないか？

今で言う、がむしゃらにかっこ悪く生きることは、俺はいいと思うんだがね。

もっと必死に生きてみたらどうだろう。

【ご参考までに】

勝海舟夫妻の墓の隣には、西郷隆盛留魂碑（りゅうこんひ）があります。
戦死した西郷隆盛ををいたみ、勝海舟さんが私費で建てた碑だそうです。

こちらには戦争で亡くなったたくさんの軍人さんの魂が、西郷さんを慕って集まっていた
。

ですから、西郷隆盛留魂碑に立ち寄られると、中には気分が悪くなる方がいらっしゃるかもしれ
ません。

その場合はお線香を手向ける気持ちで、ご供養をお願いします。

わたしは西郷隆盛さんとは別な場所でお会いしました。

西郷さんからのメッセージは後ほどご紹介します。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話
とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い
します。

【勝海舟夫妻の墓】

勝海舟は西郷隆盛との江戸城明け渡し会談の際に立ち寄った洗足池の自然に感嘆し、洗足軒と
いう別邸を設けました。

今はその近く、洗足池の畔に妻と共に眠ります。



(画：1)



(画：2)



(画：3)



坂本龍馬さんの像が、立会川駅そばにあることは以前にご紹介しましたが（P40参照）調べてみると、龍馬さんの師匠である勝海舟さんの像もありました（画：1）さっそくわたしは勝海舟像がある、墨田区役所横のうるおい広場を訪ねました。

隅田川沿いに勝海舟さんの銅像は建っていました。
銅像前では観光客やカップルが代わる代わる記念撮影をしていました。

わたしは川のほとりに腰を下ろしました。
隅田川を見下ろすと、屋形船や水上バスが行き交っています（画：2）
そこから、わたしは勝海舟さんからのチャネリング・メッセージを受け取りました。

最初は不思議なイメージが送られてきました。
そのイメージは、ひし形が横に3つ並んでいます。

わたしは「なんだろなあ〜」と考えつつ、尋ねてみると、
岩崎弥太郎という文字が浮かんできました。

3つのひし形を並び替えてみると・・・
「ああ〜三菱マークか。」

しかし、銅像との関係性がいまいちつかめません。
わたしは岩崎弥太郎さんとはまだ出会っていませんでした。
そのままメモを取って、とりあえず持ち帰ることにしました。

このつながりについては、後ほどご紹介します。

わたしは勝海舟像の前で、勝海舟さんから読者に向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

尊敬されること。

その名に恥じぬよう、師は自らに厳しく努めないといけない。
人の上に立つ、人をまとめるということは容易いことではない。

尊敬されるリーダーとは、目指してくる者たちよりも常に先を歩き、その行き先を照らし、示す役割がある（※）

そのために常日頃、師は誰よりも学ぶ必要があるのだ。

※銅像の指先しには、そういう意味があるそうです。

わたしには、自宅でたくさんの書籍を前に勉強している勝海舟さんのイメージが見えました。
「すばらしいなあ〜」と感心していたら、ふと、勝さんから声をかけられました。

「とりあえず、行動しているのはわかった。」

「しかしまあ〜、効率が悪いな！」

「それでも、前もってスケジュールを立てて動くことは、今日はできているけどな。」

」

時計を見ると、不思議なことに予定よりも1時間ほど余裕があったのです。

このまま帰宅する予定だったのですが、わたしはもう一カ所訪ねてみることにしました。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



(画：1)

【勝海舟像】

勝海舟の銅像を建てる会により建立され、墨田区へ寄贈されました。



(画：2)



☆おまけショット☆

隅田川にかかる枕橋から、建設中のスカイツリーが見えました。

記念にパチリ！



わたしが勝海舟像でチャネリング・メッセージを受け取り、これから帰ろうとしたときのことです。

勝さんから、まだ予定より1時間程余裕があることを知らされました。

「えっ？ほんとだ！」

スケジュールギリギリで動いていた感じだったので、わたしは時計を見て驚きました。せっかくなので、もう一カ所、急遽訪ねてみることにしました。

後日訪問する予定の史跡リストから、なんとなく思いついたのが旧薩摩藩蔵屋敷跡でした。急いで調べてみると、勝海舟像がある本所吾妻橋駅（ほんじょあづまばし）から、旧薩摩藩蔵屋敷跡がある三田駅までは都営浅草線1本でつながっていました。

わたしはすぐに出発しました。

現在の第一田町ビル、旧薩摩藩蔵屋敷跡に到着です。

周辺には、たくさんのビルが建ち並んでいます。

こちらは道路に面した植え込みの中に、勝・西郷会見の地碑（画：1）が建っています。

わたしはビルの1階にある、コーヒーショップに入りました。

コーヒーを受け取り、テーブルに着いたときです。

ふと、隣のフロアーが車の展示ブースになっていることに気づきました。

さらに目線をあげてビックリ！

「あっ！三菱マークだ。」

正面の壁には、先ほどの勝海舟像で送られてきたイメージが大きく掲げてありました。

そう、ここは三菱自動車工業の本社が入っているビルでした。

どうやらこの流れで回るように、今日はもともと用意がされていたようです（笑）

すると、目の前に西郷隆盛さんが現れました。

やっと会えました♪

そばには勝海舟さんと、なんと坂本龍馬さんもいます。

わたしが理解したことがおかしいのか、西郷さんと勝さんはこちらを見て笑っています。

「なんだかな～」とブツブツ言うわたし。

一方、龍馬さんはものすごくおとなしいです（笑）

勝さんといるときの龍馬さんは、ほんとにしゃべらないんですよ～。

「故郷が懐かしかった。」

旧薩摩藩蔵屋敷跡でのチャネリング・メッセージは、西郷さんの一言から始まりました。

本来の西郷さんは穏やかな性格で、田舎でのんびりと暮らす生活を好むようなタイプだったそうです。

ですから江戸にいたときは、一人になると故郷がとても懐かしく思われたのだとか。

しかし、薩摩藩のために働くと心に誓って江戸に来てからは、常に自分自身を奮い立たせていたそうです。

西郷さんの厳しい言動について、周囲からはおそらく何を考えているのかわからないと思われていたんだろうと言っていました。

「あの頃のわたしは何かを守ろうとするばかりに、時に主観的になり、決断を誤りそうになっていた。」

それを客観的に見るように諭してくれたのが、旧薩摩藩蔵屋敷跡で会った勝海舟さんだったそうです。

立場が違うもの同士が、それぞれの思いを抱えて向き合いました。

西郷さんは、勝さんが熱い思いを胸に、本気で自分に会いに来たのだとすぐに理解できたそうです。

また勝さんは、西郷さんが自分を犠牲にしてまで目的を成し遂げようとする人物だと理解し、西郷さんの武士としての志を称えたそうです。

二人には、言葉ではない、互いの気持ちを理解しあえた瞬間があったのだそうです。そのとき、実は男ながらに涙し、それはすばらしい時間だったと伝えてくれました。

わたしは西郷さんの話に感激して、涙をウルウルさせながら、せっせとノートにメッセージを書いていた。

すると、わたしの隣で龍馬さんも「うんうん」と深くうなずきながら、一緒に感動しているではないですか！

きっと龍馬さんも、師匠と西郷さんの当時の会話を聞いたかったのでしょうねえ～（笑）

西郷隆盛さんから、読者へ向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

もっと外へ出て、人と関わりなさい。

頭で考えるだけで、自分一人の世界に閉じこもってはいけない。

坂本龍馬のように、行動することで出会いは得られます。

出会いはかけがえのない宝です。

わたしが個人的に受け取ったチャネリング・メッセージもご紹介します。

自分を成長させるためにも、良きライバル、良き友を持つことです。

わたしは自分を理解し、尊重してくれる友人が持てたことを、とても嬉しく思っています。

☆西郷隆盛さんの印象

今までわたしがイメージしていた人物とはまったく違っていました。

特に江戸での西郷さんは、奥に秘めた繊細でナイーブな、優しい性格を感じさせます。

波乱にとんだ人生について「後悔はない、精一杯生きたと思っている。」と語ってくれたのが印象的でした。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



(画：1)

【旧薩摩藩蔵屋敷跡】 【勝・西郷会見の地碑】

幕府の陸軍総裁・勝海舟が官軍参謀の西郷隆盛を訪ね、江戸開城に向けて最終交渉を行った場所。

すでに官軍による江戸城総包囲網は完成しつつあり、総攻撃直前で戦闘は回避され、江戸の街は戦禍から救われることになった。



●薩摩藩蔵屋敷跡

現：港区芝5-33-8 第一田町ビル

JR田町駅 西口 徒歩3分

都営線三田駅 A6出口 徒歩2分

三菱自動車工業本社



200m

慶應義塾大学



三田

三菱自動車工業本社

森永プラザビル

三田中学校

田町



今回は東京（江戸）を離れ、お隣の神奈川県横須賀市へ出かけました。

坂本龍馬さんの妻である坂本龍子さん、お龍さん（おりょうさん）の墓を訪ねるためです。

京急大津駅を降りると、お龍さんが眠る信楽寺（しんぎょうじ）までは徒歩で5分ちょっと。道沿いには案内がポイントごとに設置されているので、とてもわかりやすいです。

駅を降りてすぐにある大津行政センターには「坂本龍馬の妻、おりょうさんの眠る街大津」（画：1）と垂れ幕がかかっていました。

お寺の入り口には看板があり（画：2）、こちらにお龍さんの墓があることが記載されています。

そして、お龍さんの墓のそばには『市制施行七十周年記念、横須賀風物百選「坂本龍子の墓」』（画：3）と書かれた案内板が建っています。

わたしは墓前に花を供え、手を合わせました。

やはり、お参りにいらっしゃる方が多いようです。

墓前には花はもちろん、京都霊山護國神社にある龍馬さんの墓の写真や、龍馬さんとお龍さんのフィギュアなど様々なお供え物がありました。

わたしが墓前で合掌をすると、すぐにシックな着物姿のお龍さんが現れました。

おお～！若くて美しいお姿です。

お龍さんは日本髪を結っていて、赤玉のかんざしを挿しています。

すると、そのかんざしを抜いて口に啜えたまま、ササッとわたしの髪をまとめて、代わりに挿してくれました。

そのかんざしは龍馬さんとの思い出の品だそうです。

まるで身内に接するような親しみを持って歓迎していただき、わたしは安心したと同時に、とても嬉しくなりました。

わたしは坂本龍子さんの墓前にて、お龍さんからチャネリング・メッセージを受け取りました

。

まず、お龍さんは龍馬さんとの思い出を語り始めました。

お龍さんにとって龍馬さんは「希望」、そして「光り」だったそうです。

お龍さんの前にいる龍馬さんは決して自分を特別な人物であるようには語らず、ずっと知り合った頃と変わらなかったそうです。

お龍さんが目を輝かせて嬉しそうに話してくれたのは、二人でいるときの様子についてでした

。

龍馬さんはかなりの甘えん坊だったそうです（笑）

二人ともお酒が好きで、よく龍馬さんはお龍さんに膝枕をしてもらいながら、お酒を一緒に楽しんでいました。

さらに、お龍さんがさかずきを持っていない左手を、龍馬さんはよく両手で包み込むようにして握ったり、なでたりするのが癖だったのだとか（笑）

お龍さんはそうされることがとても嬉しく、またそんな龍馬さんを心から愛しく思っていたそうです。

それから、二人で薩摩を旅行したときの話も聞かせてくれました。

龍馬さんは、世界を一緒に旅しようとお龍さんによく言っていたそうです。

また、土佐の子供時代の思い出や、家族、特に姉である乙女さんの話をしては、土佐にお龍さんを連れて行ってあげたいと話していたそうです。

ただ、楽しく浮かれていただけではないことを話してくれました。

お龍さんは、ふとしたときに龍馬さんがさびしい表情をしていることに気づいていました。

またある日のことです。

龍馬さんが刀を前に瞑想をしているのを見かけ、その表情がまるで別人のようだったと言っていました。

二人は安らぎと緊張の狭間を行ったり来たりしていました。

お龍さんは、互いにどこかで別れを感じていたのだろうと話してくれました。
ですから、お龍さんは旅の終わりは胸が張り裂けそうにつらく悲しかったそうです。

わたしは坂本龍子さんから、読者（特に女性）に向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

わたしはよく龍馬さんから「生き抜く」という言葉を聞いていました。

龍馬さんが亡くなってからは、どんなにつらくても、それだけは約束しなければいけないと思って生きてきました。

龍馬さんを失ってからは、わたしにはまるで光りを失ったような日々でした。

自分自身にとっての生きる目的は必要です。

わたしの人生はわたしのものであり、
あなたの人生もまた、あなたのものです。

誰かに託すことで、自分自身が希望を持って生きることは難しいのです。

今の時代は女性が自立できるようになりました。
さらに生きる目的を持って日々を過ごしてください。

☆坂本龍子さんの印象

初めて会ったときは、妖艶な魅力を漂わせた女性だと思いました。

ズバリ！モテそうです。

たくさん話をしているうちに、お龍さんのいつまでも少女のようなまっすぐな気持ちや、一方で強い母性的な愛を感じ、個人的には共感するところが多かったです。

なので、すぐに親しくなっていました（笑）

龍馬さんについて印象的だった一言がありました。

「龍馬さんはとても強くて、やさしくて、弱い人です。」

お龍さんならではの表現かなと思います。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。



（画：1）



(画：2)



(画：3)



(画：3)



☆おまけショット☆

信楽時 本堂内



ランチを食べたお店 八幡屋さん



おりょうそば (うどんもあるよ)



あっきーおすすめの「ひと休みスポット」をご紹介します。

三菱創設者、岩崎弥太郎の本邸「旧岩崎邸庭園」です。

残念ながら龍馬さんを感じることはできませんが（笑）、わたしはある人物に会ってきました

！

それでは、プチ写真集でお楽しみください♪



【旧岩崎邸庭園 洋館北側】



【旧岩崎邸庭園 洋館南側】

洋館の建築家はジョサイア・コンドルさん。

以前ご紹介したニコライ堂もコンドルさんが設計したそうです。（P37参照）

概観の写真はありませんが、洋館と結合し和館もあります。

洋館の装飾は大変細かく、そしてなんとと言っても豪華です。

ガーン！、非常に残念なことにいずれも館内は撮影禁止でした・・・。



【和館 お抹茶席※】

食いしん坊のあっきーにははずせない、お茶の時間です♪

こちらは和館にある喫茶室です。

（※この写真はスタッフの方に撮影の許可をいただいております）

館内を見学したら、お庭を眺めながらゆっくり休憩をとられてはいかがでしょうか？

重要文化財に囲まれてお茶がいただけるなんて、なかなかないそうですよ。

ですから、ふすまや壁に寄りかからないように気をつけないといけませんでした。

わたしは定番のお抹茶セットを注文しました♪

お茶を楽しんでいると、手に稲穂を持った、着物姿の男性がこちらに向かって廊下を歩いてきました。

なんと、岩崎弥太郎さんにお会いしました。

実は洋館ではほとんど弥太郎さんを感じなかったのです。

あとから知りましたが、和館が岩崎家の居住空間だったそうです。

プチ写真集のはずが、写真が少ないので（笑）、岩崎弥太郎さんから受け取ったチャネリング・メッセージをご紹介しますね。

弥太郎さんはいきなりわたしの背後に回ると、右手を取り、大きく「大成」と文字を書きました。

まず、自分が得意とするものは何かを見極める。

次に、それをどう発展させるかを考える。

そして、そのためには何を学ぶ必要があるのか気づき、努力する。

すると必ず結果がついてくる。

しかし、ここからが問題である。

その道を極め、一人勝ちしようとしたら、回り道をするばかりか限界がやってくる

。

良き協力者に恵まれた者が一番早く成功する。

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い致します。

旧岩崎邸庭園を散策する前に、フランスのランチなどはいかがでしょう？



湯島駅から徒歩3分、湯島天神の裏にあるおしゃれな一軒家フランス、ビストロ タカさんです。



メインは鮮魚のポアレ、赤ワインのビネガーソースをいただきました♪



前菜はパテを選び、デザート（画像）はいちじくタルトのアイスクリーム添えをいただきました。

はあ〜ん、おいしかったです♪



【湯島天神】



【参考文献（Webページ）】 ※ 2010/11/1アクセス

「中央区観光協会」

<<http://www.chuo-kanko.or.jp/>>

「千代田区観光協会」

<<http://kanko-chiyoda.jp/>>

「しながわ観光協会」

<<http://www.sinakan.jp/index.html>>

「港区観光協会」

<<http://www.minato-kanko.com/>>

「大田ナビ（大田観光協会）」

<<http://www.o-2.jp/index.html>>

「ここはヨコスカ（横須賀市オフィシャルサイト）」

<<http://www.cocoyoko.net/>>

「楽天トラベル たびノート」

<<http://kanko.travel.rakuten.co.jp/>>

「京急で行く龍馬めぐり」

<<http://www.keikyu.co.jp/webtrain/ryouma/>>

「公園へ行こう！！」

<<http://www.tokyo-park.or.jp/index.html>>

「日本正教会|ハリストス正教会」

<<http://www.orthodoxjapan.jp/>>

「赤坂氷川神社」

<<http://www.akasakahikawa.or.jp/>>

「湯島天満宮」

<<http://www.yushimatenjin.or.jp/pc/index.htm>>

「勝海舟を顕彰する会」

<<http://www.katsu-kaisyu.net/>>

☆～ Special thanks ～☆

坂本龍馬

勝海舟

松平春嶽

山内容堂

坂本龍子

千葉佐那

千葉重太郎

西郷隆盛

千屋寅之助

山本琢磨

岩崎弥太郎

c e r e n a

ガイアの光り

m y f a m i l y

☆～ 協力 ～☆

【表紙イラスト・本文イラスト】 美紀羽

【表紙デザイン・マップ製作】 ナカムラ ナオコ

【プロフィール撮影】 なお

【構成・本文撮影】 あっきー

☆～ プロフィール ～☆



著者 あっきー

出身地 長崎県諫早市小川町

職業 眼科院長（東京都渋谷区） ・ スピリチュアリスト

HP <http://salondeakinews.edoblog.net/>

2010年11月8日 初版発行



大村湾

(撮影 My Father)